

東日本大震災災害対策ニュース

第18号

2011年4月28日

東京都生協連災害対策本部

東京都生活協同組合連合会
災害対策本部
本部長 専務理事 竹内 誠
東京都中野区中央5-41-18
東京都生協連会館
電話:03-3383-7800
Fax:03-3383-7840

このたびの東日本大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

がんばろう 東日本！！ つながろう 日本！！

被災者支援 災害ボランティアプログラム

参加報告



第3期（4月16～22日）参加メンバー

東京災害ボランティアネットワークとともに登米市を拠点にしたボランティアプログラムの活動が始まりました。

生協からの参加状況

第2期	4月9～15日	東京都生協連1名（笹岡）、東都生協1名（菅井）
第3期	4月16～22日	東京都生協連1名（藤野）
第4期	4月23～30日	東京都生協連2名（生原、三浦）

ボランティア募集内容

活動場所： 宮城県登米市、南三陸町など

(宿泊場所：登米総合支所登米保健センター 宮城県登米市登米町寺池桜小路100)

活動内容： 被災地のニーズに合わせて臨機応変に対応します

現段階では、登米市・南三陸町における各避難所支援等を想定

応募条件： ・心身ともに健康な20歳以上の男女

- ・東京災害ボランティアネットワークの活動の意義を理解して頂ける方
- ・防寒対策の出来る方（夜は寒くなります。）
- ・お風呂に入れないなどの不自由にも耐えられる方
- ・事前研修会に参加できる方（毎週水曜日19:00～東京都生協連3F会議室で開催）
- ・出発場所（新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ10階）まで来られる方

現地での食事について

食事については、基本的にメンバーで食事係を分担し、自炊をします。食材については事務局で用意いたしますが、限られた種類の食材になります。

* その他詳細は東京都生協連までお問い合わせください

4月26日に現地からメールで届いた報告です

東京災害ボランティアネットワークが拠点を置いている宮城県登米市登米保健センターは、寺池城という古城の跡に位置している。寺池城は仙台藩伊達家の重臣白石家が配置されており、その後明治になってから登米には水沢県の県庁がおかれるなど、登米は歴史を感じる事のできる趣あるまちだ。そんな登米市から一山越え、南三陸町に入ると、想像を絶する光景が広がっていた。テレビなどでは見慣れていたが、見渡す限りの「がれき（と言ってもよく見ればそれは私たちの生活の中によくある様々な物資であるのだが）」の山、建物の上に車が乗っていたり、線路（気仙沼線）の上に船が打ち上げられていたり、本当に衝撃を受ける光景が広がっていた。

私は現地では主に「思い出探し隊」とよばれる、作業に携わっている。これは南三陸町の町長の強い意向で進められており、「がれき」の中に埋もれていた主に写真などの「思い出」を被災者の方々に返すために洗浄をする作業だ。やはり結婚式や誕生など人生の節目節目で取られた写真などが見つかり、ボランティアの方々もうれしい気持ちになられるようだ。ただ、作業にはある程度の習熟（といっても半日も活動すれば立派なベテランであり二日目に入れば「先輩」になるのだが）と継続性がやはり求められるので、ボランティアの継続性がやはり必要だということを強く感じた。なお、この作業には被災された南三陸町の方や私たちが滞在している登米市の方もボランティアとして参加されている。

今日は自衛隊などが探しだしたものを受け取りに行くために、実際に「がれき」の中へ行き「思い出」を探す作業をした。写真だけではなく、へその緒から位牌まで、まさに人の一生が見つかるという印象だ。また、途中、「がれき」の中にあるガソリンスタンドで給油をしたが、車が停まるスペースだけを確保したガソリンスタンドで軽トラックの荷台に積まれたタンクから直接給油をするような状態であった。しかし、そんな形でも少しずつ復興が進んでいることが感じられた。

東災ボの活動が長期にわたるという事、また私たちの期も1週間安定して活動することから、多くの持ち場でリーダーに次ぐような立場で活動することも多く、そのような意味でも継続性と信頼が重要であるという事を感じた。実際、作業の中でリーダーのような役割を担っている方は、長期にわたって滞在されている方が多い。しかし、そのような方にはさまざまな負担がかかっていることも感じられた。引き続き、被災された方や、他のボランティアから信頼を得られるように活動していきたい。

三浦 一浩